

新たな大学が深川に
農学部開設構想と地域の未来

～創志学園・環太平洋大学・深川市の3者が語る～

長年にわたり地域に根差した教育を行ってきた拓殖大学北海道短期大学。その施設を活用し、新たに環太平洋大学による四年制農学部（仮称）の開設構想と、同短期大学施設へクラーク記念国際高等学校校舎を移転する方針が発表されました。

深川市、学校法人創志学園、環太平洋大学は、農業を核とした新たな学びの拠点づくりに向けて連携を進めています。農学部開設は、若者の学びの場の創出や地域活性化、さらには未来の農業人材の育成につながる大きな可能性を秘めています。

今回は、学校法人創志学園の増田哲也理事長、環太平洋大学の大橋節子学長、田中市長の3者による座談会を通じて、その構想の背景や目指す将来像についてお伝えします。

【問合先】まち未来推進課地域創造係（32番窓口/☎26・2246）

深川市での新たな教育活動に対する期待

市長　拓殖大学北海道短期大学の閉学発表以降、市民の皆さまからも今後を心配する声が多数寄せられていました。今回の構想は、農業教育の灯を絶やすことなく次世代につなぐ大きな一歩となるもので、大変ありがたく、市として大いに期待しています。長年親しまれてきた学びの場が、形を変えながらも引き継がれていくことを心強く感じています。

なぜ深川市で農学部を開設

理事長　クラーク記念国際高等学校は平成4年の開校以来、34年間にわたり深川市に支えられながら教育活動を続けており、深川市は私たちにとって特別な地域となっています。特に野球部、バレー部に対しては創部以来、皆さまから物心ともに応援いただいており感謝しきれません。

こうした中、学校法人拓殖大学から拓殖大学北海道短期大学施設の活用についてご相談をいただきました。広大な実習農場や教育施設を有するこの環境は、全国でも大変恵まれた環境です。また、深川市は北海道有数の米どころであり、農学教育を行う上で最適なフィールドであると考え、農学部開設構想を進めることとしました。

どのような農学部を目指しますか

理事長　農学部先端農業学科（仮称）の設置を構想しています。開設時期は令和10年4月を予定し、入学定員は80人を想定しています。深川市に北海道キャンパスを置き、次世代農業を担う人材育成を目指します。なお、現段階は構想であり、今後変更になる可能性があります。

学長　最大の特徴は、北海道・岡山・東京の3拠点を活用した日本でも例のない多拠点型の農学部を目指していることです。深川市では稲作やスマート農業、岡山では果樹栽培、東京では流通や販売を学ぶことができます。生産だけではなく、経営や販売まで学ぶ「稼げる農業」を支える人材育成を目指しています。食は、私たち一人一人の健やかで豊かな暮らしにつながっています。「生きることは食べること、食べることは生きること」という視点を大切に、生産から加工・流通までを捉え「食」への興味と関心を広げる学びを、北海道キャンパスで展開したいと考えています。

市長　今回の構想は、地域ごとの強みを結び付けながら学びを展開するなど、全国的に見ても独自性の高い仕組みとして、大変魅力的だと感じています。

農業を「つくる」だけでなく「経営する」「販売する」といった視点まで学ぶことは、これからの農業に必要な考え方です。深川市の豊かな農業フィールドを活用しながら、全国から学生が目指したくなる特色ある農学部となることを期待しています。

地域農業の未来

学長　日本の農業では担い手不足や高齢化が進んでいます。一方で、スマート農業やバイオテクノロジーなど新たな技術も急速に発展しています。

私たちは、こうした技術を活用しながら持続可能な農業を支える人材を育成したいと考えています。深川市から全国へ、そして世界へ羽ばたく人材を育てていきたいと思います。


環太平洋大学
大橋節子学長

理事長　私たちは単に農業技術者を育てたいのではありません。日本の農業を通じて食料安全保障や地域課題の解決に挑戦する人材を育てたいと考えています。深川市はその挑戦の出発点として最適な地域だと考えています。

市長　農業は本市の基幹産業であり、地域経済や市民生活を支える大切な産業です。一方で、担い手不足や人口減少など全国共通の課題にも直面しています。

今回の農学部開設構想は、そうした課題に対し人材育成という面から新たな可能性をもたらすものです。大学が持つ知見や研究力と、地域が持つ豊かな農業資源を結び付けることで、新たな価値や技術が生まれることを期待しています。

本市から、日本の食と農の未来を支える人材が育っていくことを願っています。

学生の地域への関わり


田中市長

学長　大学の学びは教室の中だけでは完結しません。農業者の皆さまや地域の企業、団体の皆さまにご協力いただきながら、現場で課題を発見し、解決策を考える教育を行いたいと考えています。

また、深川市全体を学びのフィールドとして活用させていただきたいと思っています。

市長　本市には意欲的な農業者や農業関係団体、企業の皆さまが数多くいらっしゃいます。学生の皆さまには地域の方々との交流を通じて、教科書だけでは学べない現場の知恵や経験に触れていただきたいと思います。

また、市民の皆さまにとっても大学や学生との交流は大きな財産となります。大学と地域がともに学び、成長できる関係を築いていくことを期待しています。

市民のみなさんへ

理事長　深川市の皆さまには、長年にわたりクラーク記念国際高等学校を支えていただいています。地域の皆さまのご期待に応えられるよう、農学部開設構想についても着実に取り組んでまいります。今後ともご理解とご支援をお願いします。


学校法人創志学園
増田哲也理事長

学長　深川市の恵まれた環境の中で、地域とともに学び、地域とともに成長する大学を目指します。将来、多くの学生が深川市を第二のふるさとと感じてもらえるような教育を実践していきます。

市長　深川市民をはじめ北空知地域の皆さまとともに大学・学生の皆さまを歓迎いたします。大学、地域、産業、行政が力を合わせ、新たな学びの拠点づくりを進めていきます。本市の未来につながる挑戦として、市としても関係者の皆さまと力を合わせ、しっかりと支援してまいります。

結びに

農学部開設構想は、地域の豊かな農業資源と大学の知見を結び付け、未来の農業人材を育てる新たな挑戦です。また、クラーク記念国際高等学校の移転により、拓殖大学北海道短期大学が長年培ってきた教育環境が引き継がれ、高校と大学が共存する新たな学びの拠点として活用されることとなります。

深川市と学校法人創志学園は、このような新たな展開を契機として、10月26日に包括連携協定を締結しました。今後、環太平洋大学をはじめとする創志学園との連携をさらに深化させながら、地域の発展と次代を担う人材育成に取り組んでまいります。市民の皆さん、そして企業・団体の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

